



第9回：近世② 俳諧・国学

俳諧

貞門俳諧 文芸としての俳諧を作る

↓
松永貞徳 北村季吟

談林俳諧 自由軽妙に

↓
西山宗因 井原西鶴

蕉風俳諧(正風) 元禄期／さび しをり ほそい かるみ

↓
松尾芭蕉

紀行文：野ざらし紀行、笈の小文(おいのこぶみ)、更科紀行、奥の細道

俳諧七部集 (芭蕉七部集)…芭蕉の俳諧撰集の中の代表作品。

「冬の日」「春の日」「曠野」「ひさご」「**猿蓑**」「炭俵」「**続猿蓑**」の七部

→弟子

向井去来…去来抄 (俳論)

服部土芳…三冊子 (俳論)

天明俳諧

与謝蕪村…新花摘

横井也有…鶉衣 (俳論)

化文政

小林一茶…おらが春

川柳

柄井川柳…誹風柳多留 (俳と誹 間違えないように！)



国学

契沖…万葉代匠記

荷田春満…(記紀万葉の研究)

賀茂真淵…万葉考 (万葉=ますらをぶり ←いいね! 古今=たをやめぶり ←NG!)

本居宣長…源氏物語玉の小櫛 (源氏物語の本質は「もののあはれ」にある) 古事記伝 (古事記注釈書)
玉勝間 (随筆) うひ山ぶみ (国学入門) 鈴屋集 (和歌集) 石上私淑言 (歌論)

平田篤胤

↓こっから先は難易度上がる～(儒学は第10回でやるので、載せてません)

和歌

加藤千蔭…「うけらが花」幕府の与力。賀茂真淵の一門。

村田春海…「琴後集(ことじりしゅう)」江戸の豪商。破産してからなぜか歌にはまっちゃう。

良 寛…「蓮の露」おおらかで純真で天真爛漫な歌を詠んだ越後のお坊さん。子どもと遊ぶの好き。

小沢蘆庵…「ふるの中道」“ただこと歌”を唱え、平明清新な歌を詠んだ。

香川景樹…「桂園一枝」“しらべの説”を唱え、ありのままの心情を自然に表現。桂園派をつくる。

橘 曙覧…「志濃夫廼舎歌集(しのぶのやかしゅう)」貧乏だけどそれもいいじゃんって感じ。学問得意。

漢詩文

頼山陽…「日本外史」：武家の歴史